

青木誠四郎先生に

特殊幼児の取扱法をきく會

— 十月四日附於幼稚園雅園 —

司會者

「本日は青木先生には御忙しい中を私共の爲にお出で下さいまして、誠に有難うございます。又皆様も雨の中を大勢御出席下さいましてありがとうございます。今日は私共が日常困つて居ります子供の事に就きまして、青木先生に光を與へて頂きます誠に有益な會でございます事存じます。問題を前以てお送り下さいました方は極少数で御座いますが、實際問題でございますから何誰も澤山に問題をお持ちの事存じます。どうぞ御遠慮なくごしお出し下さいませに願ひ致します。では先に問題を御送り下さいました方からお願ひ致します。Aさんどうぞ、質問の御説明をお願ひ致します。」

A「當年七歳、來年小學校に入學の豫定の男の園児でございますが、身體が大きく大體に於て健康のように見受けられます。従順であつたり、不従順であつたりむらで反抗心強く自分の氣に入らぬ事（例へばわるい事をしてこめられた場合など）だまあきらかに反抗し打つたりつねつたりし、強情で我儘でございます。お話なき氣に入つた場合には他の子供より一層の熱心さですが氣ののらぬ場合は其の反對でございます。其の爲め他の子供も餘り良く交際が出来ませんが、智識がある爲め他の子供より尊敬さうひまですか一段高く見られてゐます。」

青木「判断はさうですか」

A「相當しつかりしてゐると思ひます」

青木「さういふ家庭ですか」

A「父は會社員でお母さんはあまり叱らない方で理窟を言つてきかせる人です」

青木「いわゆるインテリお母さんですね」

A「ハア、母の會の幹事をしてゐられる相で兄弟は皆この子供と同じ様な傾向です。」

青木「數の觀念はさうですか」

A「數や字はよく出來ます」

青木「智能は高いですね。お母さんは叱らないのですね」

A「ハア、口で叱つて折檻するさういふ様な事はなさない様です」

青木「兄弟はさうですか」

A「兄弟は三人で男ばかりでその子供は一番下です。三人は皆同じやうで一番上の兄は成蹊に、次のは〇〇小學校一年に通つてゐますがその子は學校の先生は一年に行つてもよい程智能が高いさうおつしやつてゐらつしやる相です」

青木「困つたことを言ふ先生ですね、お父さんはお子さんに干渉しますか」

A「お父さんは關係なしの様です」

青木「亂暴はさの程度にしますか、轉つて暴れたりしますか」

A「いゝえ」

青木「ねち／＼に反抗しますか」

A 「理窟を言ひます。その子供の程度より低い事を言ひます。忽ち理窟でやりこめられます」

青木「健康はいゝですね」

A 「こゝの所暫く風邪を引いて休んでゐますが特に丈夫でも、又弱くもありません」。

青木「天候の影響はありませんか。つまり、雨の日暑い日御機嫌がわるいといふ様なことは」

A 「サア……」

青木「これは随分関係のあるものですから大事なことです」

A 「一日の中でも色々變るのですけれど……」

青木「一日の中で一番いつが悪いですか、朝ですか、晝頃ですか」。

A 「さあ、こちらの出様で随分ちがひます」

青木「それはこちらの出様で随分ちがつて來ます。ピシャッとおさへれば向ふが反抗してくるのですか」

A 「そういう時もあります、發作的に來て、何もしい人を掻き廻したりします。それはお友達の居ないといふこともあるかも知れませんが、兄さんの方は尙ひきかつたさうで、お祖母さんがその兄さんをあまり可愛がらなかつたのでひきくなつたさうです。或日お寺に連れて行つて、本堂で靜に坐らせて置きましたら、直つたさうですが、この子供はその兄さん程ひきくはないといふ母親の話でございました」。

青木「聞かせれば解りますか」

A 「解るのかも知れませんが、その時は反抗してミても恐い顔でにらみます」

青木「先づこゝういふ子供のこゝで一番問題になるのは素質の事ですね。素質は智能の方面と情意の方面とあります。こゝ

の子供は智能が高い、きつこ智能テストをしたらかういふ子供はいゝでせう。そして情の方面から言ふと感情がつよくて其れが内向して來るのです。この子供はあまり華やかでないで陰氣でせう」

A 「はあ」

青木「感情が強くて内向的で頭のよい子は私の強いものです。自分で自分を大事にするこいふ事が強いので人に氣に入らないこいをされたり言はれたりするこ、自分が承知をしない。それが陽氣な子供だこ癩癩を起して大聲で泣いてあこは忘れるこ云ふ風なのです、内向的の子供ははつきりこれを外に出さないでねち／＼して脇に出して來ます。大人でも陰險な人言はれるのにさういふのがありますね。おこられた時その時はしないで、後で陰に行つて當るこいふ様な事です。兎角カラッこしないのですね。そこへ親の養育の仕方が理窟で聞かせるのですから、子供も自然理窟で向ふ様になつたのでせう。子供にも判断力があります。はつきり理窟が解るのではなく薄々氣持の上で解る。殊に頭がよいので、この傾は助長されて反抗心が出て來てゐるのです。

こういふ子供を如何に取扱ふかこいふこは、まづその素質があるのですから、その素質が他の關係で掩れるまでは相當大きくなる迄續きませうね。こういふ子供は青年期に色々問題を起し易い人こいつてよいでせう。幼稚園に來てから直さうこいふのでは少し遅過ぎで直しくいのです。この位になるこ理窟を知つてまして、理窟で攻めて來ますからね。一歳から三歳位迄の間なら、癩癩を起した時におさへれば自然に習慣的に之を直す事が出來ます。こういふ子供を主我的な子供こいひますが、自分の考は大變よくて人のは何でも悪いこ考へるのですね。こういふ子供は間接の方法で、例へばお話を聞かせるにしても、そのお話の中で其の子に似た子供が後で大變に困つた様な話、又は此の子供の反對の性質の子供が大變善い仕合せになつたこいふ様な事を、靜に聞かせるのですね。子供の反省は大人こは違ひますが、餘程調子をゆる

くすれば効果があります。こうしてじり／＼矯正してゆく、自分の理智の上から識らず識らずの中に参へるのですね。子供が子供としての理想のやうなものに向つて進んで行くといふのが大事ですね。叱つては駄目です。叱るにます／＼動かなくなる。反省の機會を與へればよいのです。おこなく自分のした事が悪いと言ふ事を反省させる様にすれば自然に直つて來ます。頭の悪い子供にはこれが出來ませんが、頭がよければよほどまでは直つてゆきます。こうした子供が此のまゝ續いて行くに大きくなつてから困りませう」。

A 「友達を掻き廻す時はどうしたらよろしいでせう」

青木「一寸いらつしやい、言つて連れて來るより仕方がないでせう」

A 「それが困るのです、そうして連れて來るに怒ります」

青木「その時におさへてしまはなければいけません。それをおさへてこちらに連れて來てから靜に言つて聞かせるのです。其の時にこちらが怒られて負けてしまへばいつでも其の手を使はれてしまひます。これでお解りですね」。

司「次にませた子供の取扱ひについての御質問Bさん問題の御説明を願ひます」。

B 「今年一年保育に這入りました男の子供で、大きいですからすべてに發育して居りまして口の聞き方等少しも子供らしい所がないので御座います。近所を調べて見ましたら、自分と同じ年頃の子供は遊ばず、いつも小學校一年二年の子供と遊んで居りますが、その子供達があま環境のよくない子供達で、人の困るこゝ、變化のある事を好むと言つた様なたちなのでございます。其の爲に其の子供も幼稚園にまゐりましてから、人の困る様な事をして喜んで居たりしてきても子供らしくないあくさい所がある様に見受けられるのでございます。リレーの時にしましても短い距離です、自分が歸つて來てから次にバトンを渡す人に渡さずにドン／＼行つてしまふのです。「何故そうするの」を尋ねますと、こんな短い

處なんか走つたつて面白くないからださ申します。小さい子供相手ですぞ致しますが大きい足の速さうな人達を選んで致します時はきつみ足が痛いさか何さか言つて致しません」。

青木「家庭はごうですか」

B 「お母さんは小學校の先生で、お父さんは軍人です。お家では十八九の女中さんが一人で其の子供を預かつて居ります。弟が一人あります。祖父母が近所に居て其の子供が幼稚園には入りました頃はよくお迎へに見えて、其のまゝお祖母さんの家で夕方まで遊んで居た様ですが、此の頃は一寸もお祖母さんの家へ行きません、お祖母さんの所へなんか行つたつて面白くないと言ひます。家へ歸つて近所の子供達と遊び度いのです。一番よく遊んで居る子供さいふのが、やはり小學校の先生のお子様でお父さんが三つの時に亡くなられたので淋しからうと言つて夏休み中この子供のお母さんが家に連れて來て遊ばせたのだ相です」。

青木「お母さんの性質はごうですか」

B 「よく存じませんが快活の様です」

青木「勝氣ではないでせうか」

B 「いくらかそうした氣味もあります。お母さんも師範の時に大變成績がよかつた相ですから」。

青木「理窟を言ふ方ですか」

B 「度々お話し致しましたがそう理窟はおつしやいません」

又此の頃は目立つて嘘を申します、一人人のした事を覚えてゐて、私達が何か其の子供のした事を吐りますぞ、誰さんもしたく三人を指して申します」。

青木「頭はよいですか」

B 「たいしてよくないと思ひます。常識的にはませて居ますけれ共」

青木「それはそうでせう、數の觀念は」

B 「まだあまり深くは檢べませんが數の事や智的の事を聞かれるのは、あまり喜ばないのです。この頃になります。他の來年學齡の子供は字や數の事を口にするものですが、此の子供はあまり口に致しません。晝を描いたり本を讀んだりする事も好みません。お話を聞くのは好きですが」。

青木「體はいゝのですね」

B 「體はこてもよく發育して居ります。一寸見ても一二年位に見えます」

青木「そうした傾向は何時頃から現れて來ましたか、始めからですか」。

B 「始めはそれ程あくどくはなかつた様ですがそわ／＼して一寸も落付きがありませんでした。そして一學期の終頃大變になれて來ましたので喜んで居りましたら、一學期からは又がらつゝ變つてこんな様子になつて來ました」。

青木「さういふのを我々は neglected child といひます。つまり子供をほつたらかして女中やお祖父さんお祖母さんに育てさせて置く極端に云へば街路に放つておくさういふ様な育て方ですね、女中はいくらい女中でも責任を以て育て、行くさ言ふわけには行きません。唯其日／＼を無事に過ごして行けばよいのですから。お祖父さんお祖母さんにした所が其の係に對しては、理想を以て育て、行くさ言ふわけには行かないと思ひます。まして街の中に放つておかれる子供はさうしても悪い友達や成人の悪い影響を受け勝になるのです。細民の子供なぎにはさういふませて始末の悪いのが却々あります。さういふ子供のも一つの原因としては、さつきの子供と同じやうに素質は強いのですがそれが内向的でなく外向

的で、自分を現し、人に見せ様とする性質があるのです。そこから所謂餓鬼大将にならうとするのです。自我が同じ強くても内向的な子は自己表現欲が少ないが、外向的な子はこんな傾向がつよい。大人でもよく法螺を言ふ人がありますね、あれはやはりこの、人に見せ様とする所から来たものです。この放たらかされた云ふこと、子供の素質にさう云ふものがある云ふ二つの原因、これがこの子供の歪んで來てゐるこの大きい原因でせう。尙この子供について考へられるのは、自我感情が勝つてゐる云ふことです。自我の觀念は四五歳の所で一段落つくものですが、この頃になるに非常に言ふことを聞かなくなります。この時期に取扱を誤るに、この自我をおさへるさいふ経験をせずに来てしまふので大變自我の強い子になつてしまふのです。この子にしても、外向的で自我が強いから人の目に立つ様な事をしたり、又人を困らせて得々するさいふ氣持が出て來るのです。お話の、力の強い子にする時にはしないさいふのは其の時には自分を現はせないからやらないのです。つまり悪い友達と女中の間に委ねられて來て來ますから、女中は御機嫌を取つて無事に過ぎるし、友達はおおだて、遊ぶさいふ風で、自我の強い子供が少しも嬌められる事なしに、粗野な取扱ひの中に育つて來たのです。然もお母さんは夜だけしか居ないのでから母の愛を十分に受けるさいふわけにもゆかないのです。これも大きい原因と思はれます。智能の高い子は理窟で自我を通さうしますが、この子供は亂暴で通すさいふ様になります。夏休み後特にさういふ向きになつたさいふのはやはりその友達の影響でせうね。其の友達が純な子供であつたらよかつたのでせうが、ませてゐた爲に其の子の御機嫌を取り乍ら遊んでゐたからでせう。

そこでまづ自我が強くて自己表現欲が出るのはまあ仕方がないとして其れが粗野でなければ満足するのですね。そして其のおおだてながら本能的な遊びを教へる友達を取らなければなりません。又一方では正しく訓練する者が無ければ駄目です。お母さんに出來なければ幼稚園の方でしつかり訓練しなければ駄目です。この様な子供は恐らく其の爲にむくくさ

ふくれて蔭から刺を出す様な事は無いでせう。目に見えて悪い事をした時に、そして自分でもテレてる様な時、ピシャンとおさへつけてしまふのです。夜は子供は活動しないものですから或はお母さんの居る時にはあんまり悪い事をしないのかも知れませんが、本能的自我がはねをのばしてゐて道徳的自我が發達してゐないのですから、この道徳の自我の發達について考へなくてはならぬのです。

生活的には、其のあまり好きでない仕事をも、少し程度を下げてやさしくしたものをさせて其の仕事の中に自己を表現させる様にするのです。そして少しよく出来た場合には、よく出来たまほめてやつて、人をかき廻して自己表現を満足させてゐたのを轉じさせて仕事の中でそれを満足させてやるのです。自己表現の場所が出来ればその傾向は大分なくなる筈です。

B 「子供に依りまして、悪さを致しましても咎めてよい子も、悪い子もありますので或時は吐つてもほかの時は吐らない様な事も自然起るのですが、その子供がそれを見てゐまして「誰さんがしても吐られないのに自分が吐られた」を申しますのですが」

青木「一般としては吐らなければいけませんね。然しこの子をおさへるのは特に問題を起した時に吐らなければいけません。其の特別の時期をつかまへるのが、こちらのこつですね」。

B 「こゝにいふ子供からほかの子供が受ける影響は餘程大きいものでせうか」

青木「外の子供の指導によりますね、あゝいふ事は悪いこゝいふ事を、外の子供に行爲の批判の出来る様に導く事が必要です。大人の批判は異ひますが、あゝ言ふ事をする人はいやな人だ、意識する様に導いて行くより外ないでせう。

それでも尙ほかの子供に大きな影響がある事が判つた時はやめて貰ふより仕方がないでせう。人数が多くて其の子供にか

まつてゐられない、又は性質があまりに強すぎて仕方がない時は傳染病と同じですから隔離するより方法がないでせう。
これでよろこびますか」

B 「有りがたうございしました」

司 「では次にCさん説明をお願ひ致します」。

C 「七歳の女兒で智能は普通ですが家では強情といはれて居る子供が幼稚園では言葉や動作がグズグズしてゐる間に合はないのです、叱つてよいものかどうか迷つて居ります」。

青木「智能の普通といふ事はどう言ふ所から判断しますか、數の觀念などは」

C 「相當にあります」

青木「數の比較は出来ますか」

C 「はあ、この間キャラメルを八つ持つて來てこれをお父さんとお母さんに分けてお覽なさいと申しましたら、ちやんち四つづゝに分けました」。

青木「お家ではごんなに取扱つて居られますか」

C 「お母さんは強情だ〜ミ一番叱る相です」。

青木「叱るからいけないのですね」。

C 「元氣が無くて體も弱くてヒヨロ／＼して居りますがする事には非常に興味があつて、やり出すと出来るまでなかなか止めないのです。お辨當だと言つても出来るまでは強情に頑張つて居ます」。

青木「それは強情ではないのです。いゝ所があるのですね」。

それはまづ體を氣をつけて、あまり叱らない事ですね。よく叱つても強情だといふ事を言ひますが、叱るから強情になるのですね。そして子供のよい所を見付けて、それを伸してやるのです。前に申しました自我の出て来る四歳五歳の時にあまり言ふ事を聞かないので親が驚いてしまつて叱るので、ますく強情になつてしまふ事はよくあります。つまり強情養成ですね。自我の意識の強い子は、正面から突くミ駄目ですから、脇から引き出す様にする事です。子供の好きな上手な事からさせて、褒めてはやらせ、褒めてはやらせる様にするのです。それからさあやいなさいく言ふ時には、こちらがぐすくしてゐては駄目です、まづこちらからさつささせる様にする事が大事ですね、子供が自分でぐすくやつてゐると思はれますけれ共、そうぢやないですね、こゝ言ふ子供はぐすくせざるを得ないので、體がはつきりして來れば癒るでせう。これでお判りですね」

司 「次に第二問の方をお願い致します」

C 「早生れの六つの男児ですが智能もやゝ劣り時々亂暴を致します。赤ちやんの様で何をさせても一番拙く、お友達とも遊ばず一人で楽しく遊んでゐますが」

青木 「それは頭の悪い子ではないでせうか、だまするにまだ社交性が出てこないのですね、亂暴するのは智能が低くて自分をおさへる事が出来ないからするのではないでせうか。さういふ家庭ですか」

C 「普通でお父さんもお母さんも、相當に教養がある様です」

青木 「泣いたりしますか、」

C 「イ、エ、一寸も泣きません、皆が折角お仕事をして居る時にいきなり後から來て、打つたり致します」

青木 「元來低能の子供に二つの種類があります、ビネーが言つてますが均衡性ミ不均衡性の二つです、前の方は、ぼん

やりして居て、始終にこくして居て、何でも人の言ふ事をハイハイと聞く様な低能で、後の方は其の反對に、言ふ事を聞かない、にこくして居ない、きかん氣の所があるのがそれです、不均衡性の方が種々な問題を起し易いのです。よく普通の學校で起る事件ですが、學校であの子が出来ない、ミ皆に言はれたので亂暴をして友達を傷けたと言ふ様な事になるのです。衝動的性格を持つて居るのですね。

C 「お母さんは學校をおくらせ様かと言つていらつしやいますが、如何でせう」。

青木「それはおくらせた方がよいと思ひますね、先づ生活の習慣をよくつけて、衝動的の事をおさへるより仕方がありませんね」。

司 「次はDさんお願ひ致します」。

D 「七つになります男兒、どちらかミ申しますミ理窟つばい所が御座います。お家はお母さんミお姉さん二人弟さんが一人御座います。その子が三つの時にお父さんが亡くなられたので御座いますが、お母さんはお子さんをいぢけさせたくないと思つて、お父さんは外國にいつていらつしやるのだと言ひ聞かせておありになります。お姉さん二人は本當の事を知つていらつしやるのですが本人には何時本當の事を知らしたらよろしいでせうか。もしこのまゝ中學時代になつてから知つて失望からぐれ出す様な事があつては困りますが、ミの御相談を受けましたので一寸お伺ひ致したう御座います」。

青木「親の死をかくすミ云ふ事はよくやりますね、何時話したにしても、親がそれ迄事實を隠して居たミいふ事はよくないと思ひます。子供に對して、不信實を増すものです。小さい時に話しても、其の爲にいぢけるミ云ふ事はない物です。淋しがる事はありませんが、又それは何かの方法で補へると思ひます」。

なるべく一日も早く事實をお話しになつた方がよいですね、子供が父親の懐しさを意識しない中に、青年期にならない

中に、子供によく今まで話さなかつた母親の氣持を納得させて後、父の死んだ事を話したらよいと思ひます。姉さん二人の事を考へて見ても、姉さん二人が弟に對して、いつも一つの嘘を言つて居る言ふ事になつて、これ又悪い影響があるものと思ひます。

D 「今、其の子供がお友達に君のお父さん死んだらうと言はれて、疑問を起しかけて居る所で御座います」。

青木「誰かに聞いたのですね」

D 「その子が理窟ばいので理窟を言ふ様になつたら尙困るでせうが、今話して病氣にでもなる事があつては言つていらつしやいますが、」

青木「病氣になるなんて事はありませんでせう」。

お母さんが今までの事をよく話して、胸に落ち着けてやるのですね、今は年が小さいから直ぐには影響はありませんね、兎に角話すのはなるべく早い方がいゝです」。

D 「有りがたう御座いました」。

E 「私も一つお願ひ致します。六つになります男の子供、さ來年學校の子供で御座います。こちらで致しましたテストの結果は中以上で御座います。入園致しましてから一學期の間はいつも一人で遊んで居ました。お室に入る時でもは入らずに、遊戯も、お畫かきや塗畫等も一寸もしないで、砂場や山の上で、かなり長い時間一ヶ所で遊んで居ります。食事もお歸りの時だけ這入つて來ます。大分そのまゝで置いておいたので御座いますが、先學期の末頃或日、女中が自分を迎へる態度が悪いと言つて大變におこりました。その女中が少し後の方に居たので皆の女中の様にもつゝ前へ出て來なければいけない、又、靴も黒いのはいけない赤いのを持つて來いと言つてあつたのにこおつたのだ相で御座います。私も其

の時はこの子供が御洒落なので丁度茶の洋服の時でしたから茶の靴がはきたいのだな、と思つて居りました。所がこの學期から女中をひごくいぢめる事が度々御座いますのです。髪を引張つたり、つめつたり、するので御座います。或朝も女中が逃げて來ましたので、子供をおさへて置いて女中を歸し、後でよく其の子にわけを聞きますと、唯女中が悪いノ、と言つて居ます。何でも毎朝本校の門から幼稚園迄の間で三十分位道草をするのださうですが、その時早く行きませうと言つたのが氣に入らなかつたのだ相です。塗畫等も畫の外をチョン／＼するだけですが、美醜の觀念は強く、女中も奇麗なのさでなければいやだま申します。あまり何も致しませんので、遊戯の時今度はきつゝするさいふ約束を致しましたら、其の時は遊戯をしましたが自分の嫌なものはいしないで歩いて居ました。それから又二三日してさうしてもしないま申しますので、しない人は歸りなさいま申したら、やつゝやりました。さういふ工合に何でも理窟を言つて聞かせなければ聞かないので、今では理窟で攻めて居ますがさういふものかしらと思つて居ます。

この間も鼻尿をなめて居ましたのでおやめなさいま申しますと、しよつぱくておいしいと言ひます、それぢや先生が皆の鼻尿を貰つてあげるからお食べなさいま申しましたら、人のなんかいやだま言ひます。なぜなめてはいけなかいま聞きますから、鼻尿は鼻の中のごみが固つたので汚いのだから食べてはいけないま申しましたら、やめました」

青木「家庭はさふいふ所ですか」

父は三井物産に出て居りまして、母は府立高女出、おばあさんは女高師出で、家にはお父さんの兄弟が二三人居て、大人の中の子供ですからね、今日も塗畫の時畫の外をチョン／＼塗つて居るので他の子供が何か申しましたら子供はこうするものだ頑張つて居ました」。

青木「頭は悪くないでせうね」。

E 「悪くないと思ひます」。

青木「つまり一人子で、女中が居、おばあさん、叔父叔母が居るのですから、そうした方面の影響が随分ありますね、女中をひきく使ふ言ふ様なのはきつこ成人がそういうふう風に使つて見せるのではないかと思ひますがね」。

E 「そんなにひきくされても女中は家へ言はないらしく、お母さんが來られての話しに、毎日大人しくいらつしやつたいらつしやつた言ふので一寸も御存じなかつた相です」。

青木「それがいけないですね、女中はそれを申し上げれば自分の責任上濟まない様な氣がして言はないのですね。自我が強くてそのまゝ大きくなり、社會性がないので、幼稚園に來ても自分勝手の事をやつて居るのです。そういう子は、家でチャホヤされて、大事にされて大きくなつたのですから、先生に對しても、人に對しても何とも思はないのですね。家庭で子供の躰を嚴重にする事が先づ一番必要です、大もこは家庭の問題です」。

E 「お母さんのお里に尋ゆくこ大變な優待の仕方らしいです。方々に連れて行つたりして」、
青木「そういうのがいけないですね」。

E 「私も此の頃は少し強く出て、目に涙をにじませて叱るこ聞きますこでも可愛いこ子供なので我慢して叱るのですけれ共」。

青木「よく可愛いこ子、つまりみめのよい子に性格の悪い子があるのはそれですね、可愛いこのでつひ皆から可愛がられて、我を通して育つからいけないのです」。

青木「家庭に其の子の本當の姿を知らして家庭に一緒に訓練するのですね」。

E 「有りがたう御座いました」

F 「私も一つお願ひ致します。私の方の七つになります女の子で御座いますが、先程のCさんの御尋ねになりましたお子さんご反對に、體はごてもいゝので御座いますが、ぐずぐずして居ります。口も一寸もきゝません。仕事も自分からは決して致しませんが、させれば普通以上に出来るので御座います」。

青木「頭はいゝですか」

F 「普通以上で御座いますと思ひます。數の觀念も相當にありますし、字も假名は全部讀み書き出来ます」。

青木「ごんな家庭ですか」

F 「お家は商人で兄が一人妹が一人で御座います」。

青木「兩親は、ごんな人ですか」。

F 「お父さんはごても大人し相な方で如何にもお母さんに數かれて居る様です、お母さんはお子さんをごても吐るらしく、子供もお母さんの方がごわいご言つて居ります」。

青木「兄さんも妹等はごんなですか」。

F 「兄さんも普通の男の子供に比べますご大人しい方ですがでもよくお話は致します」。

青木「まづ普通ですね」。

F 「ハァー、妹さんはやつぱりだまつて居て、時々お迎に見えますが、むつつみして立つて居ます」。

青木「體はいゝのですね、肥つてますね」。

F 「ハァミてもよく肥つて居て、概評も、榮養も甲で御座います」。

青木「ごの程度にぐずぐずして居ますか」。

F 「皆がお遊戯室にならんでしまった頃、やつこのそくにお室に這入つて行きますし、運動場でもいつも一人でボツン立つて居ます」。

青木「こうした事は其の両親に會つて見ますと一番よく分るのでせうが、相當遺傳的なものがありはしまいかと思はれます。併しそれにしても、その氣持をできるだけひきたてるやうに、少し出來たこゝがあればよく賞めて、努めて自發的な性質を養ふやうにしないでなおりますまい。従つて、成人が怒つて叱つたりなごしてはいけません。それは尙この性質を強めるこゝになつてしまふでせう。

子供の中で兎に角問題になります子供は、自我の少ない子供か、自我の強い子供かですが問題を起こすのは多く、自我の強い子です。自我が強いがそれが、内向的であるか、外向的であるかによつて、表はれて來かたが違ふのでありますが、多くは開けつばなしでおさへられずに伸びて來たので、曲つて來るこいふのではなからうかと思ひます。長く子供を考へて取扱つて來ますと、段々一寸其の色々の事を聞いただけで出る様になつて來ますね子供の問題が主にここに原因があつて起つて來たかが分ると思ひます」。

G 「私も一つお願ひ致します。六つになります男の子で大變羞恥心が強いので御座いますが、それさへなければ申分の無い子供なので御座いますが、唯今なほさなければならぬ時期で御座いませうか、又今少し經ちましたらなほるもので御座いませうか」。

青木「今なほす時ですね」

G 「外の事が優れて居りますので、今に分るかしらと思ふ事もあるので御座いますが、
青木「どの程度にひびいのですか」

G 「例へば返事をする様な場合でも、返事をするまでには體をひねつたり何かして大變なので御座います」。

青木「正面を突いてゆくこいふ事はいけないでせう。返事を無理にさせ様とするこ、ます／＼其の羞恥心にふれる様なものですから、外の方から先生との間に慣れを作つて行つて、皆で返事をする様な場合に返事をしなくても、しななければなくてもよいこいふ様にしたらよくはないでせうか、直接の時には、唯返事が出来る様になつたか如何かをテストする程度に止めて置いて、外の時で慣れさせて行くのがよろしいでせう、小學校に行つてからは先生に慣れるこ言ふ機會が作られる事がむづかしいので、幼稚園で、なほさなければならぬでせうね」。

G 「有りがたう御座います」

B 「先程の子供と違つた子供で御座いますが、人が怪我をした時等早くだましてあげ様したり、人の足をふんだ時でも、大變にあやまつて後までも悪かつた／＼云つて居ります。私達の氣持もとても解つて忙しい時等には、僕がこれしてあげるから先生向ふをしなさいこいつて手傳ふこいつた工合です。お父さんが三つの時になくなつたので、自分が病氣をするこお母さんがとても心配するこいつた様なしんみりこした話を致します。何かする時は自分がリーダーになつて致します。保育の上では少しも困らないので御座いますが、このまゝ進んで行つてごうなるもので御座いますか、こ心配になりますので御座いますか」

青木「その子はお母さんきりで末の子ですか」。

B 「兄さんが後をこつて居て、店員が大勢で大人くさい事ばかり言つて居ります」。

青木「そうした子供の一番大事な事は、原始的な身體的の事を多くする様に、幼稚園でも、家庭でも無邪氣な遊びをさせて、大人の眞似をさせないこ云ふ事ですね。性格としては普通です。今の世の中から言へば、そうした子供は勝利です

が、然しある程度までは延びますが大きい延び方をしないですね。」

B 「それは直らないでせうか。」

青木「末子さいふ事ミ、大人の多い爲にかなりむづかしいですね。無邪氣に活動的の事をさせればいくらかはなほるでせう。」

H 「時間がおそくなりましたが、御迷惑でなければお願ひ致したいので御座いますが」

青木「どうぞ」

H 「大きい組の女の兒で御座いますが、御家庭から女らしくしてほしい云ふ御希望でおあづかりしたので御座います。大きい組で一番意張つて居て、男の子供を澤山手下にして嫂御氣取りで「おいこつちへおいでよ」こいつた調子で引き廻して居ます。ミても理窟を言つて理窟攻めにして私達を負かしてしまひます。お仕事をさせよう申しますミ。」そんなつまらない事をしなくたつていゝだらう」つて申します。

青木「どういふ家庭ですか」

H 「お父さんは工場に出て居て、お母さんは近所の使ひ走りをして居る様な家で両親共に教養は少しも無いので御座います。兄さんが一人居ますが奉公に出て居る相で御座います。女らしくしてほしいとおつしやつて幼稚園に來たのですが、女の子供ミは一寸も遊ばないで男の子がお休みですミ、一日つまんない、くミ申して居りました。」

青木「小學校に行くまでは仕方がないでせうね、幼稚園ではやはり男の子が居ますから小學校に行つて女の子ばかりの組になつたらいゝでせう。やつぱり家庭の影響ですね、言葉にしても、態度にしても、意張るさいふのは家庭で近くの子供ミ遊んで居たそのまゝが出て居るのでせう。幼稚園に來てなぜ直らないか云ふのは、やはり男の子が居て、それが一

寸おごかせば云ふ事を聞くからです。先づ其の言葉や動作で、粗野の事をした時に強くたしなめるのですね、其の時にビシャツミやらなければ駄目です。妙に意張る子供の母親をしらべて見ますと、母親の性格の弱い事がよくあります。母が子供の世話が焼けず、強く出られないでいつも子供に負けて居るのです。ですから、よい機会にその子をおさへる事が必要です。

H 「そんなに粗野ですが、私達が半襟をかへて行きますと、『先生あんなお洒落をして女みたいだね』、こいひましたり、自分の母親が汚い様子をして居るから上つてはいけない等申します、美醜の判断の様に細い感情が無いのでもない様に思はれるので御座います」。

青木「それは唯真似をして居るのでせう、きつミ父親が家庭で、母親にそうした事を言つて居るのではないでせうか」。

司 「先生、長い間色々有りがたう御座いました。まだ、質問は澤山御座います事と存じますが、あまりに時間がおそくなりますから、こゝで打ち切る事に致します」。